

期 中 の 評 価 個 表

整理番号 5 1

事業名	大規模林業圏開発林道事業	事業計画期間	昭和58年度～平成27年度
事業実施地区名 (着工中区間) (都道府県名)	米沢・下郷線 (下郷()区間) (福島県)	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 延長54.7kmのうち 下郷()区間の延長4.5km、幅員5.0m		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	事業評価システム導入前に着工しており、費用対効果分析は未実施であるため該当しない。なお、着工中区間の残工事部分について費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。		
	総 便 益(B) 415百万円 総 費 用(C) 380百万円 分析結果(B/C) 1.09		
森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	下郷町において今後、事業量(間伐)は増加する見込みである。 受益地において今後、事業量(間伐)は増加する見込みである。 本区間周辺の地形は緩やかであることから、作業路等の開設が容易であり、受益地周辺の施業及び素材生産コストの低減に寄与することが期待される。 下郷町においては原木ナメコ等の生産が盛んであることから、原木生産にも利用される事が期待される。 残工事部分の用地はすべて取得済みである。 希少猛禽類の飛翔が認められることから、毎年工事に先立ちモニタリング調査を実施し、工事実施時期等について措置を講じている。 フサザクラ群落が認められたことから群落を回避する線形としている。 丸太伏工等の景観に調和する木製構造物を採用している。 県立自然公園普通地域を通過しているが、県との事前の調整は完了している。 受益地には縄文時代の遺跡があるが、林道敷にはかかっていない。		
事業の進捗状況	進捗率22% うち下郷()区間 進捗率93%		
関連事業の整備状況	終点付近の集落から国道118号線への最短ルートとなり、生活道としての利用が期待されるほか、終点付近で栽培されている花きの出荷ルートとしても利用されることが期待される。		
地元(受益者、地方公共団体等)の意向	森林の総合的な利用の推進や農山村地域の生活環境の改善に重要な役割を果たすとともに、特用林産物の生産、花き栽培に活用できることから福島県、下郷町及び受益者は、早期完成を要望している。 幅員4mの林道で十分であること、周辺で希少猛禽類の生息が確認されていること等から中止すべきとの意見がある。		
事業コスト縮減等の可能性	施工能力の高い32トンブルドーザーなどの利用を積算へ反映し、コスト縮減や工期の短縮を図っている。 路盤材の一部に再生砕石を使用し、コスト縮減と建設副産物の有効利用を図っている。		
代替案の実現可能性	該当なし		
第三者委員会の意見	森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産物の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続(幅員5m)することが適当と考える。 なお、引き続き猛禽類のモニタリング調査に基づき、環境保全に配慮して事業を実施することが適当と考える。		
評価結果及び実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 豊富な森林資源を有しているものの、過疎化等の厳しい条件下にある地域であることから事業の必要性は認められる。 ・ 効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見込まれることから、事業の効率性は認められる。 ・ 有効性： 受益地の事業量は増加する見込みであること、生活道としての利用のほか、花きの輸送ルートとしても利用されることが期待されること等から事業の有効性は認められる。 事業の実施方針： 着工中の下郷()区間については継続とし、引き続き猛禽類のモニタリング調査に基づき環境保全に配慮して事業を実施する。		